

# 認知症支援拠点モデル事業 実施報告書

グループホームきずな（認知症対応型共同生活介護）

日野市 社会福祉法人 創隣会

## ■ 取組内容

1. 認知症理解促進事業（認知症サポーター養成講座）
2. 高齢者在宅マップ作り
3. 家族連絡会
4. 認知症高齢者の実験的就労デイ
5. 近隣団体・機関とのネットワーク会議

## ■ 取組の実施状況

### 1. 認知症理解促進事業（認知症サポーター養成講座）

#### ●事業の実施目的

老人会や自治会、民生委員や推進員に出前講座や特別講座を行うなど、モデル事業者から積極的にアプローチすることで、多くの住民に「認知症」について知っていただくことを目的とする。

#### ●実施内容

地域包括支援センターと役割分担を決め、近隣の民間事業者、学校、サークルにこちらから出向いて、認知症の正しい知識とその対応について「認知症サポーター養成講座」「認知症予防」の出前講座を行った。

#### ●実施にあたっての経緯

- ・日野市内4地域包括支援センターと役割分担を行う。老人会や自治会は地域包括支援センターが担当し、企業団体や中学校・高校にはきずなが行なう。
- ・企業・団体を中心に営業活動を行う。
- ・企業担当者に必要性を理解してもらっても、従業員を受講させることが難しい。
- ・中学・高校では、総合学習時間帯や保健授業を利用して、2時間続きから50分の授業で開催。各学年に合わせて、より身近に関心をもってもらうような工夫を行う。

#### ◆講座を受講した中学性・高校生の感想文（一部）

①認知症って、何だかふれちゃいけないもののように思っていた。私にはそういう人が周りにいないからよくわからなくて他人事のようにだった。でも、講座を聞いて、少しわかった。認知症ってだけで何もできないと決めつけることがよくないということ。いっしょにやったり、見守ってあげることをすればできることがわかった。

②私は、祖父と一緒に住んでいます。

もうすぐ80代になる祖父は、1年くらい前からボケてきて、よく意味の分からないことを言ったり、同じことを繰り返し言うようになりました。

それに対して私は、いつもイライラして怒ったりもしていました。

今回、「認知症サポーター養成講座」を聞いて、認知症でなくても、あまり怒らず優しく接していきけるようにしていきたいな、と思いました。

- ・地域の祭りに出店し、そこでサポーター養成講座を実施した。
- ・認知症について正しい理解があると、日常生活や仕事の上でどのような変化や工夫ができるかをより具体的に相手の立場（営業先）で説明すると、開催につながるが多かった。
- ・サポーター養成講座の開催にあたり、モデル事業者として正しい知識を持ってほしいと考えた企業や組織ほど規模が大きくなり、窓口担当者には理解を得たが、講座開催までには至らなかった。（郵便局、警察、金融機関、大手スーパーなど）

## ●実施実績

- ・2年間で「認知症サポーター養成講座」「認知症予防」の出前講座を21回開催し、認知症サポーターを、626名養成。（日野市の養成目標1700人の1/3超）
- ・モデル事業終了後も、地域コーディネーターとキャラバンメイトが積極的に養成講座を開催し、「認知症」についての正しい知識の普及活動を行う。

	分類	回数	養成数	備考
1	企業	5	54	各回参加者2名～35名。1回平均10.8名
2	団体	8	217	各回参加者7名～51名。1回平均27.1名
3	学校	6	317	各回参加者5名～160名。1回平均52.8名
4	その他	2	38	市内の祭りに出店し、講座実施。
	合計	21	626	

## ●事業継続

- ・今後もキャラバンメイトとして、地域包括支援センターと協力して活動を実施。

## 2. 高齢者在宅マップ作り

### ●事業の実施目的

- ・地域包括支援センター、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、介護保険事業者、医療機関等と情報交換を図り、地域で生活する認知症高齢者の存在を可能な限り密に把握することを目的とする。具体的な支援活動を行うためには欠かせない条件と考える。

### ●実施内容

- ・担当地域内の在宅におられる認知症高齢者の実態を把握する情報網・連絡関係の構築。
- ・担当地域内の認知症高齢者の在宅マップ作り。要見守り認知症高齢者の情報共有。

## ●実施にあたっての経緯・状況

- ・当初、一枚の地図上に複数の認知症高齢者在住位置や、情報を盛り込むイメージであった。
- ・本人や家族の情報を地図に載せる具体的なメリットや、掲載した情報をどうやって運用するかなどの問題点や、そもそも個人情報はどうやって収集するかなど、多くの問題点が議論の中心になり、地図作成が難航した。
- ・地図を作るという作業は、新しい取り組みとしても、地図を作る過程で集める情報や、実際の運用（いざという時には、既存の各種サービス（※日野市が実施している「高齢者見守り支援ネットワーク」「徘徊探索システム」）と重複することとなる。
- ・なかなか議論がまとまらず、ひとまず問題点や運用に関しては保留し、家族会に参加いただいた（徘徊で家族が困っている）方の協力で、パーソナルマップを作成。
- ・本人を中心に、近隣で関わる方や、散歩コース、以前の発見場所などを地図上にマッピング。
- ・本人や家族と個々に関わる関係以外に、本人を取り巻く方々の情報共有の道具としては役に立つのではないかとの意見がでるが、運用面など課題が多く最終結論には至らなかった。

### ※「高齢者見守り支援ネットワーク」

- ・地域の中で高齢者の見守りに協力してくれる事業所（コンビニ、電気屋、薬局、床屋、美容院）を登録し、マップを作成。気になる高齢者を見かけた場合は、在宅介護支援センターに連絡してもらう）
- ・高齢者を見守ってくれるボランティアを登録し、希望する高齢者に紹介する。

### 「徘徊探索システム」

- ・GPS 端末機を貸し出し、徘徊して行方不明になった場合に探索する。

## ●事業継続

- ・マップ作成の取り組みは、モデル事業で終了。（継続しない。）

## 3. 家族連絡会

### ●事業実施の目的

- ・認知症の正しい理解と相互交流を深めるために定期的な会合を行う。
- ・家族の負担軽減につながるような支援につなげるために不可欠な過程であると考えている。

### ●実施内容

- ・担当地域内で認知症高齢者を抱える家族支援のため家族連絡会を結成し定期的な会合を行う。
- ・認知症高齢者の介護経験者（家族）を発掘し、その経験を生かす活動を行なう。
- ・本人・家族に対して専門医の紹介や入院機関の案内が行えるように情報提供を行う。
- ・会合に参加することで、愚痴が言えたり、ほっと一息つけるような家族会を行う。

## ●実施にあたっての経緯

- ・日野市主催の家族会で広報を行うも反響はあまりなし。
- ・勉強会やテーマを決めての開催も提案するが、参加者は現状を同じ環境の方に話したいとのこと。
- ・当初 1 時間程度で開催していたが、話し足りない（時間が足りない）とのことで 2 時間に延長し、参加者 5～7 人くらいで開催。
- ・会を重ねるにつれ、「①各々が困っていることなど、近況報告をする。②それに対して、参加者からアイデアを出したり、体験談をする。③家族が持ち帰り、試してみたり、工夫したことを次回の会で状況を話す。」といったスタイルが定着した。

## ●実施実績

- ・2 か月に 1 回開催の頻度で開催。家族、介護経験者、関係者、本人を含めて 7 回開催。延べ 68 名が参加。

	開催日	参加人数	家族	関係者	本人	備考
1	2008/2/29	14	8	6	0	自己紹介、現状報告
2	2008/4/25	13	8	5	0	在宅生活の問題点
3	2008/6/20	7	5	2	0	近況報告
4	2008/8/29	5	3	2	0	反省会（日時等変更について）
5	2008/10/30	10	6	3	1	近況報告
6	2008/12/18	9	6	2	1	近況報告
7	2009/2/25	10	7	3	0	近況報告

### 参加家族

状況	人数	性別	
在宅介護中	11	男性	1
		女性	10
経験者	4	男性	0
		女性	4
計	15		

## ●事業継続

- ・地域包括支援センターに活動を移行し、事業継続する。  
※平成 21 年 4 月から法人は日野市から地域包括支援センターを受託している。（グループホームと建物併設）

## 4. 認知症高齢者の実験的就労デイ

### ●実施目的

- ・認知症高齢者の居場所と役割等の実験的取り組みとして、何ができるかを個別に探究し、会社デイまたは、パートデイのような形で、仕事としての役割を創出してみる。また、既存の介護保険サービスにそぐわない方の中間施設としての役割を実験的に行う。

## ●実施内容

- ・認知症高齢者の出来ることを個別に発掘し、出来ることを仕事として行っていただくようなデイサービスを実験的な試みとして行う。
- ・対象者は全市展開を検討。(送迎サービス有)

### 【就労デイ概要】

目標	生きがい、役割、社会貢献、残存能力の自覚
対象者	ADLの高い認知症（若年認知含む） 介護保険サービス（デイサービス等）にそぐわない方
集客 PR	きずな担当地域の、 地域包括支援センター、在宅介護支援センター、市内ケアマネ協議会へ広報 12名、延べ359名が参加
作業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗車、公園・幼稚園清掃、ニス塗装、植木剪定、球根植え</li> <li>・雑巾、タワシ、布巾作りや切手切り等の社会貢献活動。</li> <li>・折込広告の作成、メモ用紙作り等のパート活動</li> <li>・和菓子職人や料理人として働いていた経験者に、和菓子作りや、包丁研ぎなどを行っていただく。</li> </ul> <p>個別性を可能な限り追求し、生きがい、役割を創出。 状態に応じた個別プログラムを行う。</p>
報酬	<p>昼食を提供。 喫茶店からの出前のほか、近所の飲食店へ食事に行く。 外食の機会ですらメニューを選ぶなど、仲間同士の交流の場とする。 たばこの提供。(喫煙者対象)</p>

## ●実施にあたっての経緯

### 【利用者の状況・感想】

- ・当初、隔週で開催（平成20年7月から毎週開催）ていた。デイへの参加に伴い、月日の感覚が薄れてきた利用者に「今週は仕事がある週、ない週」という意識が生まれてきた。
- ・10:00集合で就労を始める予定であるが、「仕事は9:00から始めるもの」と身体に刻まれていて、なかなか理解が得られない利用者が・・・。
- ・時間内で終わらないと、「残業させてくれ」「持ち帰って仕上げてくる」との発言相次ぐ・・・。
- ・「自分の車も洗ったことない」「よくもここまで汚せるな」「どんな運転をしたらこんなに傷がつくんだ」と利用者同士で文句を言いあい盛り上がる。しかも、車を持ってきてくれた方に聞こえている。利用者としては、仕事をしている喜びや、社会とのつながりを感じての発言

と理解する。

- ・ガソリンスタンドの洗車相場や、いくらだったら売れるかなど、各々、勝手に原価計算を始める。(あながち間違っていないことが多い。)
- ・「若僧(当然利用者より若い職員)の言うことは聞かねえ」と、作業の進め方などで真剣に意見交換(作業拒否・・・)なんてことも。もちろん利用者同士でも・・・。
- ・それを見ていた別の利用者が職員を慰め、仲介をしてくれたり。
- ・就労デイを見学にきた、ある利用者の担当ケアマネが、介護保険サービスで、同じようにプログラムとして就労を促すと、「なんで、負担金を払っているのに仕事しなきゃならないんだ」と・・・一理ありで強要できず。
- ・1年半の経過の中で、出来なくなる作業や、精度が落ちる作業が増える。
- ・一方で、自立してできることが増え、介護保険サービスの必要性が減少する方がいる。
- ・いままで、自分の出来ることを意識することがなかったが、就労を通して他者を、いい面も悪い面も意識するようになる方がでてきた。
- ・モデル事業(無料だから)だから参加しているとの意見もあり。

#### 【安心に寄与できたと考える点】

- ・行き場のない人たちに、行き場を提供した。
- ・サービスのないところへ乗り出した。
- ・本人と家族に、顔なじみの関係の中で、安心感(安心づくり)を与えた。
- ・モデル事業終了後も、ほぼ全員が継続参加申し込み。

#### 【事業継続の課題】

- ・経費  
人件費 70万円 報酬費 10万円  
材料費 10万円 その他 10万円 概算 100万円/週1回開催(年間)
- ・介護保険サービスとの差別化
- ・介護保険外の潜在的利用者が多いことが明らかになり、事業拡大の可能性の検討
- ・利用者がADL機能と認知機能の低下により、仕事ができなくなった場合の対応(仕事内容の変更による対応も検討しているが、どの段階で他のサービスに移ってもらうかの線引き)

#### ●実施実績

- ・平成19年8月～平成21年3月(最初は隔週で実施、平成20年7月以降毎週実施)

実施延べ回数	59回
参加延べ回数	359人
平均参加人数	6.08人/回(H20.7月以降 8.42人/回)

- ・利用者の前職を参考に個人にあったデイの内容を考えた。

【利用者一覧】 男性7名 女性5名 Av:要介護 1.33 年齢 Av76.2 (男 72.1 女 82.2)

	性別 年齢	要介護	病名	前職
1	男性 63 歳	2	脳血管性認知症	自動車工場勤務
2	男性 68 歳	3	脳血管性認知症	建設関係(建材リース社長)
3	男性 70 歳	3	アルツハイマー病	金融関係(日用大工得意)
4	女性 80 歳	1	老年期精神病	家事手伝い(裁縫好き)
5	女性 96 歳	2		手芸店経営
6	男性 67 歳	2	脳血管性認知症	大工
7	男性 76 歳	未申請	アルコール依存 (アルコール性認知症)	和菓子職人
8	女性 67 歳	未申請	不安神経症(認知症疑い)	家業手伝い
9	男性 80 歳	2	脳血管性認知症	教諭
10	女性 88 歳	支援1	脳血管性認知症	保険外交員・化粧品販売員 (お茶・お花・三味線・俳句を趣味としていた)
11	男性 79 歳	1	慢性硬膜下血腫	調理師(和食)
12	女性 80 歳	1	アルツハイマー病	販売員(裁縫得意・自身の洋服をミシンで仕立てる)

### ●事業継続

- ・活動日時を変更し、事業継続。
- ・内容については変更なし。報酬を、昼食からおやつに変更。

## 5. ネットワーク会議

### ●実施目的

- ・モデル事業の趣旨を関連団体や、医療機関等に理解してもらう。
- ・モデル事業者として積極的に働きかけて、多様な情報を供用するネットワークを構築する。

### ●実施内容

- ・行政(日野市)、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業者、小規模多機能型居宅介護事業者が参加。
- ・意見・情報交換を行い、事業取組の協力を得る。
- ・地域医療にかかわる医師や、行政の保健師にも参加を呼びかけ、意見・情報交換を行う。



### ●実施実績

- ・2か月に1回開催。

### ●事業継続

- ・今後も通常業務の中で、情報共有を図る。
- ・モデル事業のような会議形式は、モデル事業で終了。

### ■事業経費

	19年度	20年度	備考
出前講座	114,501	12,300	印刷物・チラシ作製他
家族会	1,000	10,990	湯茶代、会場費
就労デイ(報酬分)	6,700	113,503	昼食代
就労デイ(材料他)	1,983	64,069	作業使用消耗品他
ネットワーク会議	4,400	10,852	湯茶代、会場費
共通(人件費)	974,090	2,465,527	地域コーディネーター(人件費/法定福利含む) 就労デイ担当補助2名(人件費)
共通(備品他)	1,005,670	0	モデル事業共通備品(机・イス他)
合計	2,108,344	2,677,241	
補助対象費	2,000,000	2,000,000	
補助対象外費	108,344	677,241	

### ■事業に要した人員と時間

人員	時間・勤務
地域コーディネーター(1名)	月間勤務日の半分(月10日程度) 就労デイや養成講座開催日など、状況に応じて勤務。 残りの半分の勤務日は、グループホームの現場職員として介護業務を行う。
補助職員(2名)	就労デイ開催日のみ勤務。 (平成20年7月より毎週火曜 9:00~15:00)